

登録番号338
福寿工業株式会社

代表取締役社長 高木 豊
羽島市小熊町西小熊4005
平成30年4月 雇用人数1人

障がい者を雇用した理由は

会社活動方針の中の「地域に愛される企業として責任を果たしていきます」という取組のひとつとして、特別支援学校からの現場実習を受け入れ、障がいのある人達と一緒に働く機会が訪れました。実習での働きぶりもよく、本人の強い希望もあり、その後、雇用することになりました。自宅から会社までが近いということも理由のひとつです。

仕事内容、働きぶりは

機械を操作して、自動車のトランスミッション関係の部品製造を担当しています。入社1か月程度で業務内容を覚え、会社を休むこともなく真面目に働いてくれます。最近では、積極的にリーダーに相談するなどして、より作業をスムーズに行おうとする姿勢がみられるようになってきました。機械のトラブルへの対応（非常常作業）についても任せられる部分が増えてきました。

障がい者を雇用するにあたり工夫していること、配慮していることは

自動車部品製造業は、製品の品質に関して非常に厳しい基準があります。初期教育では、品質を維持することの重要性の説明や作業手順の確認等、丁寧に実施しました。また、少しでも変わったことやわからないことがあったら、すぐに機械を停止してリーダーに報告することを徹底するようにしました。



障がい者を雇用してよかったことは

「適材適所」という言葉がありますが、結果として入社時より配属されている部品組付機の作業が本人にとって非常にマッチしていたと思われます。生産数をしっかり確保していることもさることながら、不良品を絶対に次の工程に流さないという強い気持ちを感じられ、今までに作業者起因の不良品は全くありません。周りの従業員もこのことを評価しており、部署全体の不良率低減の向上にも貢献しています。

◎卒業生のコメント

【今井 慧斗さん（羽島特別支援学校）】

今の仕事は、機械の動きを見ながら各部品の補充や、組み上がった製品の検査等を同時にしなければいけないので大変です。しかし、わからないことはリーダーに聞けばしっかり教えてもらえるので、自信をもって働くことができます。不良品を絶対出さないように気を付けています。基準に合った製品を計画通りに作っていく仕事は達成感があり、やりがいを感じます。

登録番号346
株式会社神岡衛生社

代表取締役 川上 大希
飛騨市神岡町東雲375番地
平成30年4月 雇用人数1人

障がい者を雇用した理由は

会社の理念のひとつに「地域に貢献する」があります。障がいのある方と一緒に働くことで、少しでも社会的責任を果たせるように努めたいと考えています。障がい者の法定雇用率の引き上げに伴い、平成24年に「働きたい!応援団 ぎふ」へ登録し、その後、地域の特別支援学校や障がい者就業・生活支援センターの協力を得ながら障がい者の雇用をしています。

仕事内容、働きぶりは

主にパッカー車の助手として廃棄物の収集運搬業務をしています。他にもビンやペットボトルの洗浄場業務も行い、総務課の事務を手伝うこともあります。地域住民の方にも大きな声で挨拶し、テキパキとした仕事ぶりで、弊社のイメージアップに貢献してくれています。また、会社内の雰囲気明るくしてくれます。仕事をすることで、社会人としての自覚も育っているように感じられます。

障がい者を雇用するにあたり工夫していること、配慮していることは

これまで障がい者を雇用していましたが、女性の雇用は初めてであり、性別にも配慮した対応をしています。本人は毎日日誌を書き、担当ドライバーもコメントを記入した後、指導担当者（女子社員）と面談指導を行っています。また、ペアを組むドライバーは4人いるので、全員が統一した指示ができるように毎月1回、本人と指導担当者を含めた6人で、指導会議を開催しています。また、指導会議後には障がい者就業・生活支援センターに報告して指導を受けています。



障がい者を雇用してよかったことは

会社全体で障がい者に対する理解が深まり、協力体制ができました。課員同士のコミュニケーションも広がったように感じます。また、西野さんがパッカーの業務を行うようになったことで、地域住民の方からの弊社への関心も高まっています。

◎卒業生のコメント

【西野 きさらさん（飛騨吉城特別支援学校）】

社員の方がとても親切にくださり、住民の方からは「女の子でゴミ収集して凄いな」と言われます。ここに就職して働くことができ良かったです。

今頑張っていることは、「安全第一で失敗をしないようにする」ことです。

登録番号482

特別養護老人ホーム フローレ川合

施設長 田淵 竜也
可児市川合793-1
平成30年4月 雇用人数1人

障がい者を雇用した理由は

4年前より毎年1人ずつ障がい者を雇用していますが、障がい者を雇用するということではなく、働く力がある方として雇用しています。特別支援学校の企業内作業学習や実習を通して、事業所のことを理解してもらったり、業務内容に取り組んでもらったりする中で、雇用につながるかどうか検討しています。

仕事内容、働きぶりは

本人の力量から他の従業員と同じように、食事の介助やベッドから車いすへの移乗等の介護の業務にあたっています。勤務時間もフルタイムで、4か月が経過するころからは夜勤も任せています。日勤のリーダーもできるように、他の従業員とコミュニケーションをとりながら、利用者に関わることができています。

障がい者を雇用するにあたり工夫していること、配慮していることは

基本的には、新卒の高校生と同じように業務に取り組んでもらっていますが、障がい者就業・生活支援センターには半年に1回来ていただき、業務の中で本人が苦手としているところについて具体的な支援について相談しました。配慮が必要な業務は、時間を長めに設定したり、確認をとったりするようにしています。



障がい者を雇用してよかったことは

本人の性格がおおらかで、利用者の皆さんにとっても人気があります。人材不足の介護業界の中で、他の従業員と同じように業務をこなすことができ、十分に戦力となっています。

◎卒業生のコメント

【佐伯 優太さん(可茂特別支援学校)】

特別支援学校の高等部に入学するまでは、自分が人と関わる仕事をすることは思っていませんでしたが、今はやりがいのある介護の仕事に就けてうれしいです。生徒として実習に来ていた時よりも、今は自分で考え、工夫してできるようになりました。在学中に介護職員初任者研修の資格も頑張って取得してよかったです。利用者さんのしたいことのできるだけ応えられるように頑張っています。

登録番号506

株式会社古川電機製作所

代表取締役 古川 忠始
海津市南濃町山崎312
平成30年4月 雇用人数1人

障がい者を雇用した理由は

障がい者の雇用を進めていく中で、特別支援学校の現場実習を受け入れたことがきっかけになります。実習での様子を見て生徒の作業能力を把握し、学校の担当の先生との間で支援の方法等を相談しながら進めました。2年生・3年生時の2年間に計3回の実習を受け入れ、実際の現場での作業に十分対応していけることを判断して採用しました。

仕事内容、働きぶりは

現在は主にプレス機を使った配電線接続用部品の製造と検品作業を担当しています。真面目にコツコツ作業に取り組み欠勤もなく、安心して仕事を任せられます。恥ずかしがり屋で無口ですが、新しい作業にも積極的に挑戦する意欲があり、マシンングセンタのオペレーター等他の作業も覚えてもらっています。

障がい者を雇用するにあたり工夫していること、配慮していることは

現場の作業では、指導担当を決めて作業内容を確実に理解して取り組めるようにサポートを行っています。さらに、現在の作業内容だけに固定せず、スキルアップを図れるように様々な作業を経験してもらうようにしています。また、現場で孤立してしまわないよう、休憩時間や昼休みには適度に言葉をかけ、コミュニケーションをとるようにしています。生活全般に関しては、障がい者就業・生活支援センターと連携しながら対応しています。



障がい者を雇用してよかったことは

地域への社会貢献の取組としての評価につながると考えています。また、従業員の障がい者に対する理解が深まりました。誰にとってもより働きやすい職場環境にしていこうと考えるきっかけにもなり、社内全体の作業改善に対する意識が高まりました。

◎卒業生のコメント

【箕浦 直毅さん(海津特別支援学校)】

学校に通っているときは、働くことの大変さがわからなかったけど、社会人になって働くこと(給料をもらうこと)の大変さがよくわかりました。今は、ひとつでも多くの機械の動かし方を覚えているんな作業ができるように努力したいです。4月からは運転免許をとるために自動車学校にも通います。